日刊工業新聞

年月日	15	09	08	ページ	04	NO.	

凛としていきる

理系女性の挑戦

自動車予防安全研究

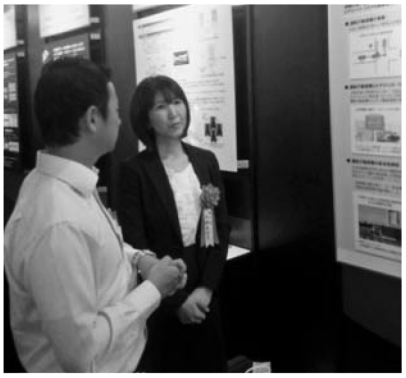
交通事故低減に貢献を

少し古い言い方をすると、「良妻賢母（りょうさいけんぼ）」を目指して家政学部に入ったつもりだった。それなのに、なぜか20年以上もメーカーの研究所で働いている。

大学の卒論テーマで住居の睡眠環境について研究した。その縁で、日産自動車に入社し、配属されたのが予防安全研究チーム。以来、交通事故低減に貢献したいという目標を持ち続けている。

1年目に任された研究テーマは、「香りによる居眠り運転防止技術」。香りでドライバーを起こすという着眼点が当時は新しかった。香料の調達、実験手法、評価方法、何もかも初めてづくし。でもチームで作業できるので心強い。仮説を立てて実験し、新しい現象、結果に触れる瞬間は楽しい。このときの研究論文で女性初の自動車技術会賞を受賞した。

今年、2度目の自動車技術会賞論文賞を頂いた。テーマは「ドライバーのリスク定量化手法の研究」。この論文は、「安全運転とはどのような運転か？」という根本的だが客観的な定義が難しい課題に対し、交通ビッグデータによる解決策を提案したものだ。さまざまな解析ノウハウ、炎天下で汗だくのテストコース実験、多くの協力者の安全への思いが詰まっている。評価されたことはとてもうれしかった。



受賞論文のパネル説明（自技会展示会場にて）

こう書くとずっと順調だったように思うかもしれないが、決してそうではない。機械もプログラミングも苦手で、理系女性とは言い難い。会社の選択を間違えたと思ったこともある。だから、独自の領域で貢献するしかないと考えた。車を操作するのは人間なので、人間のことをよく理解して技術開発を行う必要がある。事故分析、運転行動解析などが実はとても重要だ。得られた知見を発表し論文を書いた。

学会発表は社外のネットワークを広げるのに有効である。発表を機に面識ができれば、情報交換、交渉がしやすくなる。自動車工業会の分科会にも参加し、事故防止のための研究提案を積極的に行うようにしている。

交通事故低減への道のりは長いが、社内外との連携、継続的な研究活動を通じて、少しずつでも目標に近づいていきたい。2人の娘たちはそんな母を見て育ち、次女は理系学部を目指している。良妻賢母にはなれなかったが後悔はない。

企画協力・日本女性技術者フォーラム（JWEF）

▽――――△

日産自動車 総合研究所モビリティ・サービス研究所

平松 真知子

〈プロフィル〉1989年奈良女子大学家政学部住居学科卒業、同年日産自動車入社。運転支援技術、次世代車両HMIの研究開発に従事。

無断転載・複写禁止ⓒ㈱日刊工業新聞社